

Toshikai

本気になれば
世界は変わる！

都師会会報 2022 年 4 月発行 27 号

目次

1. 会長挨拶
2. 今年度活動予定のご案内
3. 連載「黄帝内経」の謎を解く(4)
4. メーリングリスト参加のお願い
5. 都師会チャンネルご案内
6. 各種ご連絡



1. 会長挨拶



「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」

古人復た洛城の東に無く
今人還た対す落花の風
年年歳歳花相似たり
歳歳年年人同じからず
言を寄す全盛の紅顔の子
応に憐れむべし 半死の白頭翁

劉希夷（全文は最後に*1）

今年も又春が来て、桜が咲いた。そして今年もコロナ禍で思う様に春を満喫出来ない…それでも穏やかな毎日を手にしたい。大陸では戦火が広がり、此の日出る国にも火の粉が飛び落ちるのではないかと心配だ。それでも明るい未来を追い求めたい。そんな世情の中で思う。

「小医は病を医す 中医は人を医す 大医は国を医す」という言葉は東洋伝統医療を学ぶ私達「あはき師」にとって幾度も耳にした事があることだろう。コロナと言う感染症に対して重症化しない身体作り、コロナに罹らない生活環境作り、は小医・中医の仕事だろうか。コロナに負けない社会、外憂に打ち勝つ国造りは大医の仕事だ。古代中国では優れた政治家と秀でた医師には共通の資質があると考えられていたのか。そしてそれは現代でも同じ事だと言えるのではないかな。

そんな大医の出現が翹望される世の中だ。

注(*1)

洛陽城東桃李花

伊昔紅顏美少年

飛來飛去落誰家

公子王孫芳樹下

洛陽女兒惜顏色

清歌妙舞落花前

行逢落花長歎息

光祿池臺開錦繡

今年花落顏色改

將軍樓閣畫神仙

明年花開復誰在

一朝臥病無人識

已見松柏摧爲薪

三春行樂在誰邊

更聞桑田變成海

宛轉蛾眉能幾時

古人無復洛城東

須臾鶴髮亂如絲

今人還對落花風

但看古來歌舞地

年年歲歲花相似

惟有黃昏鳥雀悲

歲歲年年人不同

代悲白頭翁

寄言全盛紅顏子

應憐半死白頭翁

此翁白頭眞可憐

希夷洛陽の町の東では
桃李の花が舞い散り、

飛び来たり飛び去り、

誰の家に落ちるのだろうか。

洛陽に暮らす娘たちは

その容貌が衰えるのを嘆き、

花びらが、ひらひらと落ちるのを見ると、

長い溜息をつく。

今年も花が散り、娘たちの美しさは衰える。

来年花が開くころには誰が

美しくいられるだろうか。

私はかつて見てきた。

松や柏の木が砕かれて薪にされるのを。

また聞いた事がある。桑畑の地が変わって

何度となく海となった事を。

昔、洛陽の東の郊外で

梅を見ていた人々の姿は今もう無く、

それに代わって今は別の人たちが花を吹き

散らす風に吹かれている。

来る年も来る年も、花は変わらぬ姿で咲く

が、

年ごとに年ごとに、それを見ている人間は、

移り変わる。

今が盛りのお若い方々よ、

よく聞いて欲しい。

死にかかった白髪の老人の姿は、

実に憐れむべきものだ。

この老人の白髪頭、まったく憐れむべきも

のだ。

だがこの老人も昔はあなた方と同じく紅顏
の美少年だったのだ。

貴公子たちと共に花の咲く木のもと、

花の散る中、清らかな歌を歌い、見事な舞を

舞ったりもした。

漢の光祿大夫王根が館の庭の池に

高樓を築き錦や縫い取りのある高価な布を

天幕としたように、

後漢の將軍梁冀(へりようき)が権勢を極め、

自宅の樓閣に神仙の絵を描かせたように、

沢山の贅沢をしたものだ。

しかし、

ある日病に臥してからは、友は皆去った。

春の行樂は、誰のもとへ行ってしまったの

だろう。

美しく眉を引いた娘達もどれだけその美し

さが続くのだろうか。

たちまち白髪頭となり、いつか

その髪が糸のように乱れるのだろう。

古来から歌や舞でにぎわっていた土地を見

てみよ。

今はただ黄昏時に小鳥が悲しげにさえずっ

ているだけだ。

2. 今年度活動予定のご案内

学術局

東京都委託施術者講習会 実施案

① 6 月 20 日 14 時～17 時

鈴木春子先生 「終末期医療にあはきはどう立ち向かうか。」

② 7 月 24 日(スポーツ・災害支援局)

テーマ 『『甲子園での検査法と軸を意識をしたテーピング(仮)』

福本貴彦先生:幾央大学理学療法学科准教授

③ 7 月 31 日(日)松塾スペシャル

松田博公先生:日本伝統鍼灸学会顧問・日本内経医学会顧問・当会顧問

④ 現代鍼灸「コリマップ」

鳥海春樹先生

⑤ 地域包括・自立支援

「ダブルワーク、営業力 ～鍼灸マッサージ業界の SDGs～」

⑥ 9 月 「障害を乗り越えて活躍している方から学ぶ」

(講師交渉中)

⑦ 11 月 「女性部 美容鍼灸」

(講師交渉中)

⑧ 組織強化局

(講師交渉中)

⑨ 「中医臨床の基礎を学ぶ」

(講師交渉中)



学術局からのお知らせ

◎松塾杉塾について

松塾は、2022 年度は回数を減らして 10 月と 1 月の二回実施します。
(松塾スペシャルは、委託講習会として 7 月 31 日(日)に予定しています)

◎代わりのものとして現在「実技講習会」を準備しております。

狙いは、業界団体として、臨床力の向上に資すること。特にコロナ禍にあって、学校でも対人実技が不十分にしか出来ず、「資格を取っただけでは治せない」傾向が一層進むことが危惧されます。自立できる技が身に付くような場を作ればと思います。

今の時点で決まっていること。

【講師】

◎戸ヶ崎正男先生(日本伝統鍼灸学会副会長 他)
「手作り、経絡あんま等を中心の実技指導」
第1回目は6月12日から。毎月第 2 日曜日 15 時～



◎鈴木幸次郎先生 (元東洋鍼灸専門学校専任教員 他)
「お灸を中心に」
6月5日、9月4日、12月4日、3月5日
計4回第一日曜日 14 時～

◎鈴木春子先生(国立がんセンター中央病院・同東病院緩和ケア科勤務 他)
「緩和ケア、疼痛治療、あはき全般を駆使して患者に寄り添う」
7月3日、8月7日、10月2日、11月6日、2月5日、4月2日
計6回 第一日曜日 14 時～



◎加藤蓬悦先生 (元東洋鍼灸専門学校専任教員 他)
「伊藤瑞鳳先生の技を伝える」
7月18日、11月23日、3月21日
計3回 祝祭日 14 時～

※コロナ禍で不確定要素もありますので開始時期が延期となることも考えられます。くわしくは当会ホームページ、メルマガ、Facebook などでご確認ください。募集などもホームページ等で行う予定です。

スポーツ災害支援局

□フィールド活動□

4 月 10 日 あだち五色桜マラソン 鍼・マッサージでのケア活動



当日はコロナ禍でできなかったスポーツイベントでの鍼・マッサージのケア活動を久しぶりに行いました。

感染症対策としてマスク、手袋、フェイスガードをし毎回清拭をしました。ちょっと大変になりましたが活動が出来ることは嬉しいことです。

コロナ以前に参加されてたメンバーだけではなく新卒の先生、学生も参加してくれました。嬉しいことです。小学生やゲストランナーも受けに来てくれました。

昨日の東京は暑かったです。軽く熱中症になる選手とかもいましたが久しぶりの活動を参加者の協力で無事終わる事ができました。

今後もスポーツ大会のケア活動を計画しております。来月も 5 月 14 日(土)に日野の鬼あしランニング大会のケア活動を計画しています。参加してくれる方を募集してますので詳細を知りたい方は都師会宛にご連絡ください。toshikai8811@ybb.ne.jp

他の大会でも調整がつき次第参加する予定です。



□東京都委託講習会□

7 月 24 日(日)

『甲子園での検査法と軸を意識をしたテーピング(仮)』

畿央大学理学療法学科准教授

福本 貴彦先生

プロフィール

福本貴彦(ふくもとたかひこ)

畿央大学大学院 健康科学研究科 准教授

畿央大学 健康科学部 理学療法学科 准教授

昭和 49 年(1974 年)1 月生まれ

理学療法士(1995 年取得)

運動器(整形外科系)専門理学療法士(日本理学療法士協会)



専門

関節運動学

運動器(整形外科系)理学療法学

スポーツ理学療法学

義肢装具学

東京 2020 レガシー 東京 2020 でご縁があった方に講義をしてもらう講習会シリーズです。

第一回は奈良の畿央大学理学療法学科准教授の福本先生に講習会をしてもらいます。

甲子園はドクターと理学療法士が選手を見てます。そこに長く関わられた福本先生に甲子園で行われている検査法についての話と理学療法士だけではなく工学部も卒業されている福本先生ならではの軸を意識したテーピング方法の話をしてもらう予定です。

今年度はもう一つ東京 2020 のレガシーを生かした講習会か、業団を通して災害に関わるために必要な知識を学ぶ講習会を企画中です。



総務局

R4 年度は、都師会活動の業務効率化を図り、会員の皆様にもメーリングリストを活用し、効果的な情報配信が出来るように改善を図ってまいります。

視覚障害局

視覚障害者の働きやすい環境を作れるよう、活動を進めてまいります。

視覚障害会員の方との座談会も開催予定ですので、皆様ご協力をお願いいたします。

9 月には、視覚障害の先生を講師にお呼びし、講習会を行って頂く予定です。お楽しみに。

広報局

今年度は、4 月・7 月・12 月・3 月の年 4 回の会報発行を予定しております。

皆様からも、取り上げてほしい話題などがございましたら、ご遠慮なく事務局までご連絡ください。

都師会の FB も絶賛稼働中です。都師会の活動報告や情報発信を行っていますので、ぜひご訪問ください。

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

[公益社団法人 東京都鍼灸師会・ホーム | Facebook](#)

女性局

産後ケア・美容鍼灸をテーマに講習会を開催予定です。Youtube でも動画の配信を行う予定です。

女性鍼灸マッサージ師や女性特有の悩みなどに特化した情報発信を行ってまいります。

組織強化局

会員数増に向け、入会案内やパンフレットを作成中です。

今年度は、大学病院などで活躍される先生を講師にお招きし、講習会を行うなど幅広く鍼灸マッサージ師が活躍できる環境を模索してまいります。

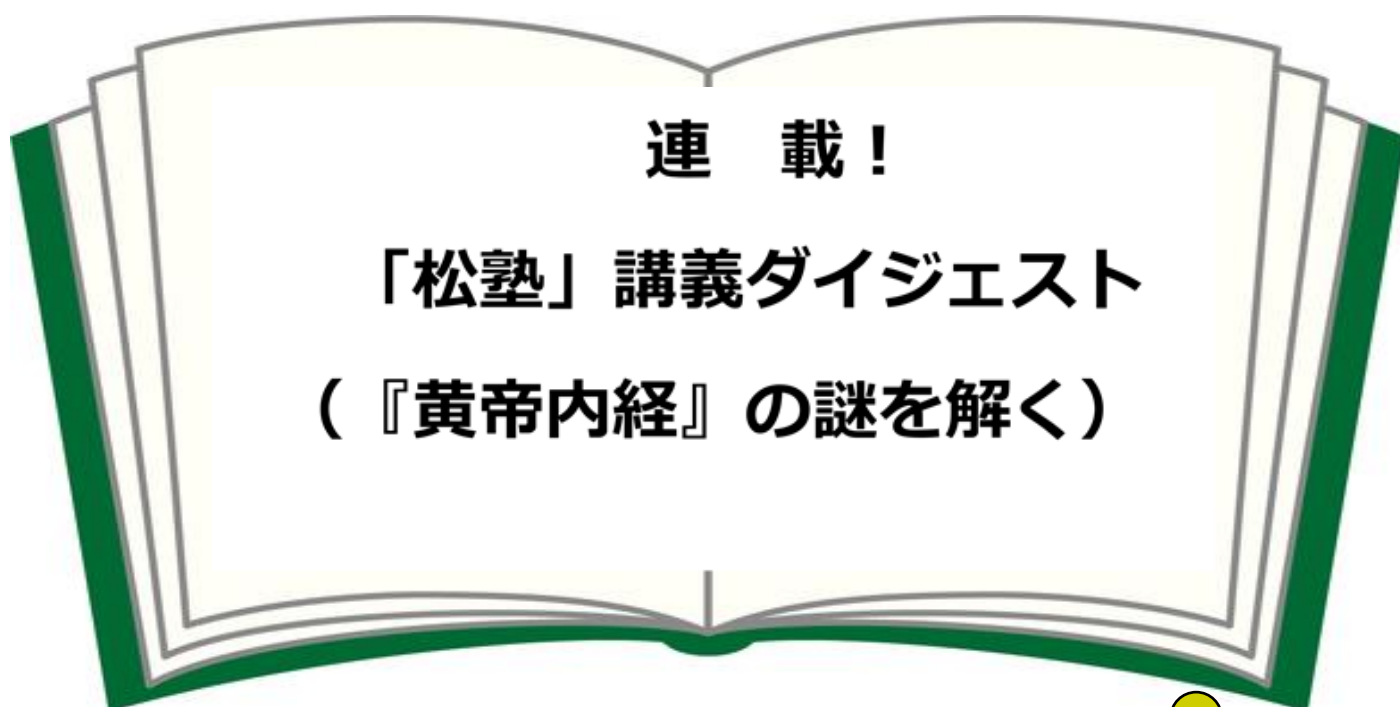
地域包括局

地域と密着した鍼灸マッサージ師の活躍の方法や、地域連携などの動画を作成し配信予定です。

昨今、ニーズの高まってきている「終末期医療」についての講習会なども検討しております。



3. 連載「黄帝内経」の謎を解く（4）



戦国～漢代政治書の黄帝も「天道」思想を語る

～『黄帝内経』と比較検討してみよう～

松田 博公 (windhorse@nifty.com)

ここで、目を『黄帝四経』から転じ、戦国～漢代の政治書、思想書の「黄帝」像を探ってみましょう。

みなさんは、高校世界史の教科書で学び、中国の戦国時代は、道家、儒家、墨家、法家などの思想家が互いに論争し自由言論が花開いた時代だったことを知っているでしょう。でも、40 年ぐらい前から、この歴史観は変わりました。今では、戦国末期、天下統一の気運が高まると、東の渤海湾に臨む斉国に、来たるべき帝国の統治に備える思想運動が起こり、対立していた諸学派が、気（氣）の思想を軸に統合されていったことが明らかになっています。

統合の柱になったのが、陰陽・五行、三才など「天地の理法」に従って政治・軍事を行う陰陽家の「黄帝」思想と、聖人が清静無為に身心を修養すれば、天下国家も治まるという道家の『老子』思想だったので、この思想潮流は「黄老思想」と呼ばれています。

この「黄老思想」は、斉国で『管子』という書物を生み、秦国で『呂氏春秋』という書物を生み、秦帝国が滅びた後の前漢で『淮南子』という書物を生みました。いずれも、政治のあり方を論じた大著です。これら黄老系の書物は、天地陰陽の法則に従って政治を行えば国は繁栄すると説き、陰陽、五行、円道、天地人、律曆、数術、天人合一など、独特な古代概念を駆使して政治のあり方を解説しています。

『黄帝内経』もまったく同じです。種明かしをすれば、陰陽、五行、円道、天地人、律暦、数術、天人合一など『黄帝内経』を彩る概念は、もとは「黄老思想」のものでしたのです。しかも、黄老派の政治思想は、国家、人民の安泰のために、王は健康でなければならないとする「治身治国」論を含み、王の身体を管理する「明堂」「時令」などの装置を考案するなど、医療と緊密な親和性を持っていました。

『黄帝内経』の医療は、黄老派の思想を枠組みとしたものでした。それに医療固有の生理・病理学、診断論、治療論を組み込んで体系を作ったのです。だから、『黄帝内経』の理解のためには、戦国～漢代の『管子』『呂氏春秋』『淮南子』、さらに『淮南子』と同じころ、司馬遷が編纂した歴史書『史記』を読む必要があるのです。

では、これら黄老系の書物で、黄帝は、どのように描かれているのでしょうか。

『管子』五行篇(戦国末)

黄帝は天の法則、地の法則に則り、五声、五行を整え、人の生活と天の運行を調和させた。

「故に陽氣に通ずるは、天に事(つか)うる所以[(ゆえん)=手段]なり。日月を経緯とし、之を民に用う。陰氣に通ずるは、地に事うる所以なり。星曆を経緯とし、以て其の離を視る[=星の位置の変化を観察する]。この道に通じて然る後に行う有り[=以上の道に精通することによって、はじめて四時の変化、気候の移り変わりを知って、正しい政治が行われるのである]。然らば則ち神筮(しんぜい)も筮せず。神龜もト(ぼく)せず[=至上の政治は、呪術によるのではなく、天の法則、地の法則に則ることによって可能となる]」。

昔者(むかし)、黄帝は蚩尤(しゅう)を得て天道を明らかにし、大常を得て地利を察し、奢龍(蒼龍)を得て東方を弁じ、祝融を得て南方を弁じ、大封を得て西方を弁じ、后土を得て北方を弁ず。黄帝、六相を得て天地治まるは、神明の至り[=神明の至高の働き]なり。(中略)昔者、黄帝、其の緩急を以て、五声を作立し、以て五鍾を政(ただ)し、其の五鍾に令(な)づく。一に曰く、青鍾は大音。二に曰く、赤鍾は重心。三に曰く、黄鍾は灑光(さいこう)。四に曰く、景鍾は昧其明(まいきめい)。五に曰く黒鍾は隱其常(いんきじょう)。五声既に調い、然る後に、五行以て天時を正し、五官以て人位を正すを作立す。人と天と調い、然る後に、天地の美、生ず[=五声が調和したので、その後に、五行によって天の時の運行を整え、五位の官僚の等級を秩序づけることを創案したのである。かくして人の生活と天の運行は調和し、そこではじめて天地の完美さが出現したのである]」

『呂氏春秋』季冬紀序意(紀元前240年ごろ)

黄帝は、天地の法則に則り、春夏秋冬十二紀(時令)に従って政治を行えば民の父母となる、と顓頊(せんぎよく)に教えた。

「維(こ)れ秦の八年、歳は涪灘(とんだん)に在り。秋、甲子朔(こうしさく)、朔の日、良人、十二紀を請い問う。文信侯曰く、嘗って黄帝の以て顓頊(せんぎよく)に誨(おし)えし所を学ぶことを得たり。爰(ここ)に、大圓(だいえん=天)、上に在り、大矩(だいく=地)、下に在る有り。汝(なんじ)能く之に法

(のつと)らば、民の父母と為(な)らん、と。蓋(けだ)し聞く、古の清世は、是れ天地に法る、と。凡そ十二紀なる者は、治乱存亡を紀する所以(ゆえん)なり、寿夭吉凶を知る所以なり。上は之を天に揆(は)かり、下は之を地に驗(しら)べ、中は之を人に審(つまびらかに)す。此(か)くの若(ごと)くなれば則ち、是非・可不可、遁(のが)るる所なし」

(折しも秦の八年は申の歳に当たっていた。その年の秋[七月]、甲子に始まる月の一日のこと、ある君子人が[でき上がったばかりの]「十二紀」の趣意について教示を請うと、文信侯(呂不韋)は次のように述べた。

以前、黄帝が顓頊に教えたという説を聞いたことがある。「大いなる円形(天)が上にあり、大いなる方形(地)が下にある。汝はこの天地を模範として政治を行えば、民を養う父母となれるだろう」と。また、昔の純粹無垢な世では、天地の法則に則り政治を行った、とも聞いている。そもそも「十二紀(春夏秋冬十二ヶ月に行うべきことを述べた時令)」は、国家の治乱存亡を律する手段であり、寿夭吉凶を知る方法でもある。十二紀によって、上は天の運行を推量し、下は地の状況を確認し、中は人事を明らかにする。このようにするならば、事の是非と為すべきこと、為さざるべきことは、漏れるところがない。)

『呂氏春秋』応道

黄帝は、天の道に従い、天と気を同じくした。

「黄帝曰く、茫茫昧昧として[＝茫昧として己を虚しくし]、天の威に因り、元と気を同じくすと[『淮南子』繆稱訓には、「天の道に従い」とあり、『文子』符言篇・上仁篇には「天と気を同じくす」とある]。故に曰く、氣に同ずるは義に同ずるに賢(まさ)る、義に同ずるは力に同ずるに賢る、力に同ずるは居に同ずる[＝世間に従う]に賢る、居に同ずるは名[＝不義の名分]に同ずるに賢る、と。帝者(ていしゃ)は氣に同じ、王者は義に同じ、霸者は力に同ず。勤むる者[＝努力する者?]は居に同ずれば則ち[その徳は]薄く、亡ぶる者は名に同ずれば則ち輓(そ)[＝徳は粗雑]なり。[『淮南子』泰族訓には、「黄帝曰く、茫茫昧昧として、天の威に因り、元と気を同じくすと。故に気を同じくする者は帝たり。義を同じくする者は王たり。力を同じくする者は霸たり。一も無き者は亡ぶ」とある]」

『呂氏春秋』審時

黄帝は、春夏秋冬の四時の運行が不変の恒常的な法則性だと知っていた。

「是の故に時を得るの稼(か)は興り、時を失うの稼は約なり。莖相若(あいし)けば之を稱(はか)るに、時を得る者は重く、之を粟(ぞく)するに量多し。粟相若けば之を舂(つ)くに、時を得る者は米量多し。米相若けば之を食うに、時を得る者は饑(うえ)に忍(た)う。是の故に時を得るの稼は、其の臭香(かんば)しく、其の味甘く、其の氣章(さかん)に、百日之を食らえば、耳目聰明に、心意叡智に、四衛変じて疆く、殞氣(きょうき)入らず、身に苛殃(かおう)無し。黄帝曰く、四時は之を正せず、五穀を正すのみ、と」

(こういうわけで、時宜を得た作物は勢い盛んであり、時宜を逸した作物は貧弱である。同じ長さの莖を秤にかけてみると、時宜を得たものは重く、粃を扱(す)くとその量が多い。同量の粃を臼について較べてみると、時宜を得たものは実の量が多い。同量の実を食したときに、時宜を得たものは飢えに耐えることができる(腹持ちがよい)。こういうわけで、時宜を得た作物は、その臭はかぐわしく、その

味は甘く、[食した人の]気力は旺盛となる。百日の間こうしたものを食べていれば、耳目の働きは聡明になり、心智の働きは鋭敏になり、四肢は強くなり、悪鬼が入り込む隙がなく、災いがふりかかることもない。黄帝も言っている、「四季のめぐりをかえることはできないが、五穀の成育を正すことはできる」と)

『淮南子』覽冥訓(紀元前122年ごろ)

黄帝は、日月の運行、陰陽の気の巡り、春夏秋冬の法則性を認識し、音楽の数術に則り暦を作成して天下を治めた。

「昔者(むかし)、黄帝の天下を治むるや、力牧、太山稽、之を輔(たす)け、以て日月の行を治め、陰陽の気を律し、四時の度を節し、律暦の数を正し、男女を別ち、雌雄を異にし、上下を明らかにし、貴賤を等しくし、強をして弱を掩(おお)わず、衆をして寡を暴(しいたげ)ざらしむ。人民は命を保ちて夭せず、歳時[＝年穀]は孰(じゅく)して凶ならず、百官は正しくして私(わたくし)無く、上下は調いて尤(とが)なく、法令は明らかにして暗からず、輔佐は公(おおやけ)にして[君主に]阿(おもねら)ず、田者は畔[(はん)＝境界]を侵さず、漁者は隈[(わい)＝川の隅の良の漁場]を争わず、道には遺(お)ちたるを拾わず、市には豫賈[(よか)＝掛け値をつけること]せず、城郭は關(とど)さず、邑に盜賊無く、鄙旅(ひりょ)の人[＝卑賤の者]は相讓(ゆず)るに財を以てし、狗彘[(くてい)＝犬、豚]は菽粟[(しゅくぞく)＝豆、アワ]を路に吐きて、仇争の心無し。是において、日月は精明に、星辰は其の行を失わず、風雨は時節あり、五穀は登孰し、虎狼は妄(みだり)に噬(か)まず、鷩鳥(しちょう)は妄りに搏(う)たず、鳳皇(ほうおう)は庭に翔(か)け、麒麟(きりん)は郊に遊び、青龍は駕(が)を進め、飛黃[(ひこう)＝三千年の寿命を保つ神馬]は皂[(そう)＝宮廷の馬屋]に伏し、諸北、僇耳(せんじ)の国[＝北方の夷狄]、其の貢職を獻ぜざるは莫し」

『史記』太史公自序(紀元前 91 年ごろ)

黄帝は、天の法則に法り、地の法則に則った。

維昔黄帝、法天則地、四聖遵序、各成法度

(その昔、黄帝は天に法り地に則る。顓頊(せんぎょく)、帝嚳(ていこく)、帝堯(ぎょう)、帝舜(しゅん)の四人の聖なる帝王がそれを嗣ぎ、おのおの法や度量衡など諸制度を作った)平凡社 中国古典文学大系『史記』の訳

『史記』曆書

黄帝は、暦を制定し、陰陽五行の法則を立てた。

黄帝考定星曆、建立五行、起消息、正閏餘、於是有天地神祇物類之官、是謂五官。各司其序、不相亂也、民是以能有信、神是以能有明德

(黄帝は暦を制定し、陰陽五行の法則を立ててその動きを知り、閏月(うるうづき)をおいた。そこで天地の神々から万物に至るすべてを支配する官が定められ、五官と称した。五官はそれぞれ秩序に従って乱れなかった。そこで人民も信頼をもつことができ、神々も明らかな徳をもつことができた。)平凡社 中国古典文学大系『史記』の訳

このように、戦国～漢代の黄老系政治書の黄帝像が、唐代に『素問』を編纂した王冰が憧れたような仙人黄帝ではないことは明瞭です。天地宇宙には法則があることを認識し、それに従うことを高らかに主張する「天道」思想の黄帝です。

この黄帝像は、『素問』『靈樞』で、黄帝や岐伯が語る医論の趣旨とぴったり一致しています。一部を引用し、確認してみましょう。

『素問』陰陽応象大論

「黄帝曰く、陰陽は天地の道なり、万物の綱紀、変化の父母、生殺の本始、神明の府なり。治病は必ず本[陰陽]に求む。故に積陽は天と為り、積陰は地と為る。陰は静、陽は躁。陽は生じ陰は長じ、陽は殺し陰は藏す。陽は気を化し、陰は形を成す」

『素問』四気調神大論

「故に陰陽四時は、万物の終始なり、死生の本なり。これ(＝陰陽四時)に逆えば則ち災害生じ、之に従えば則ち苛疾起こらず。是れを道を得ると謂う。道なるものは、聖人これを行い、愚者これに佩(はい＝背[そむ])く。陰陽に従うときは生き、これに逆らうときは死す。これに従うときは治し、これに逆らうときは乱れる」

『素問』金匱真言論

帝曰く、五蔵は四時に応じ、おのおの[同気感應する]収受あるか。岐伯曰く、あり。東方は青色、入て肝に通じ、竅を目に開き、精を肝に蔵し、其の病は驚駭(きょうがい、恐れ不安な心理)を發す。其の味は酸、其の類は草木、其の畜は鶏、其の穀は麦。其の四時に応ずるや、上は歳星(＝木星)と為す。是を以て春気は頭に在るなり。其の音は角[五音(ごいん)＝角、徵(ち)、宮、商、羽]、其の数は八[河図の説。木は三に生じ、土(五)を得て、八で完成する]、是を以て病の筋に在るを知るなり。其の臭は臊(そう、肉の生臭い気味)。……南方は赤色、入りて心に通ず。竅を耳に開き、精を心に蔵す。故に病は五蔵に在り。……中央は黄色、入りて脾に通ず。竅を口に開き、精を脾に蔵す。故に病は舌本に在り。……西方は白色、入りて肺に通ず。竅を鼻に開き、精を肺に蔵す。故に病は背に在り。……北方は黒色、入りて腎に通ず。竅を二陰に開き、精を腎に蔵す。故に病は谿(けい、ちいさな谷)に在り。……」

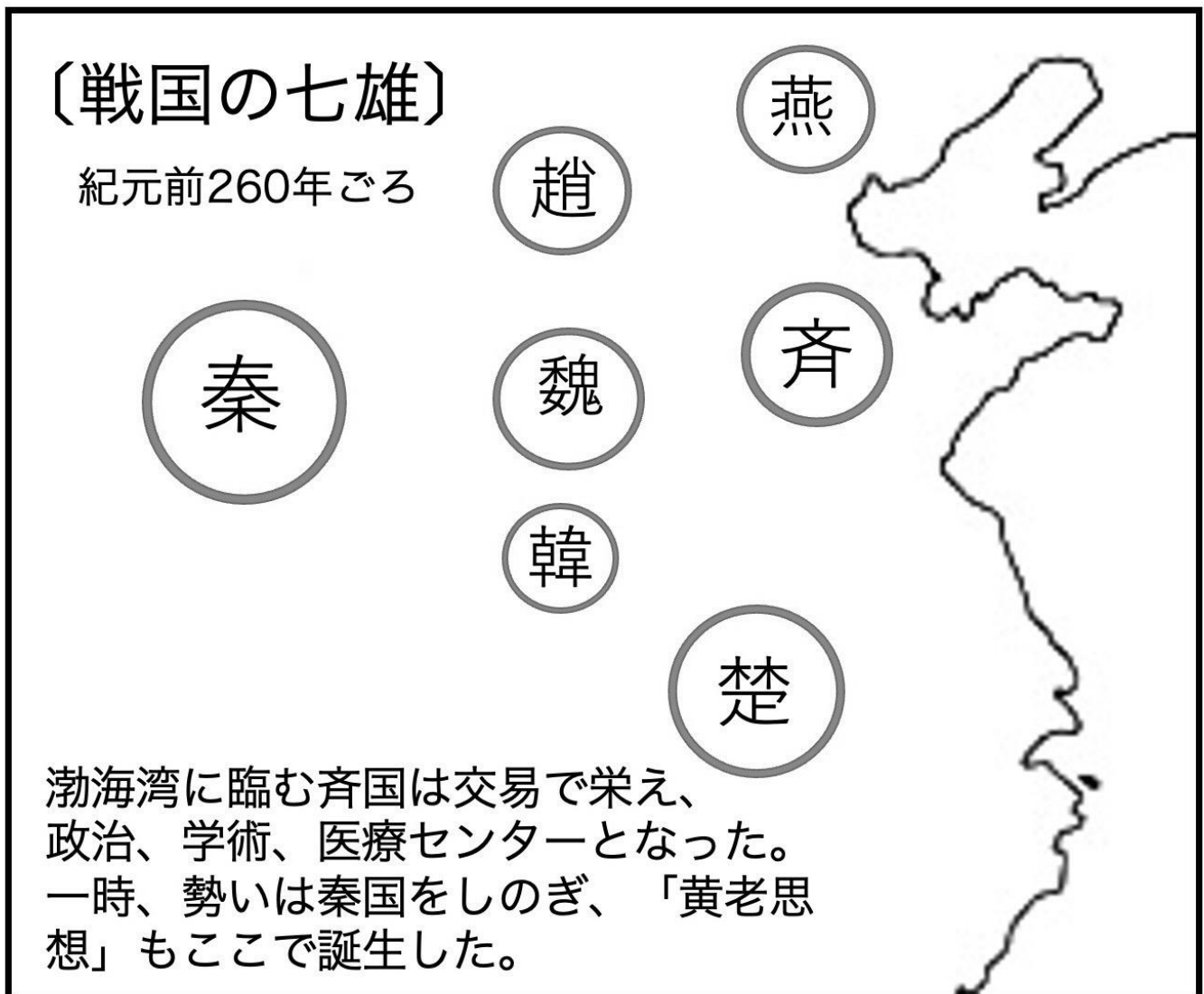
『素問』八正神明論

「黄帝問いて曰く、用鍼の服(こと＝事)、必ず法則あらん。今何の法何の則ぞや。岐伯對えて曰く、天に法り地に則り、合するに天光を以てす。帝曰く、願わくは卒(ことごと)くこれを聞かん。岐伯曰く、凡そ刺の法、必ず日月・星辰・四時・八正(夏至、冬至の二至、春分、秋分の二立、立春、立冬の二分)の気を候い、氣定まりて乃ちこれを刺す。是の故に天温かに日明らかなれば、則ち人の血、淖液(とうえき＝潤滑な液)して、衛氣浮かぶ。故に血、写し易く、氣、行き易し。天、寒く日陰(くも)れば、則ち人の血、凝泣して、衛氣沈む。月始めて生ずれば、則ち血氣始めて精にして、衛氣始めて行る。月郭満つれば、則ち血氣実し、肌肉堅し。月郭空なれば、則ち肌肉減じ、経絡虚し、衛氣去り、形独り居る。是を以て天の時に因りて、血気を調うるなり。是を以て天寒くして刺すことなかれ。天温かにして疑うことなかれ。月生じて写することなかれ。月満ちて補うことなかれ。月郭空にして治することなかれ。是れを

時を得てこれを調うと謂う。天の序[天体の運行の順序]、(月の)盛虚の時に因りて、移光もて位を定め、正しく立ちてこれを待つ[圭表(日時計)を正しく立て、移動する日影を見て、四時八正の気を計測する]

『黄帝内経』の黄帝は、黄老派の思想家、政治家が信奉したのと同じく、「法天則地」の黄帝であり、仙人黄帝ではなかったのです。

～次号へ続く～



4. メーリングリスト参加のお願い

メールアドレス教えて頂けますか m(u_u)m

昨年台風東京直撃などの災害対応や、行政からの情報を速やかに会員の皆様にお伝えする為にメール連絡体制を作りたいと思います。今まで無かったのが不思議！今どき IT でしょ！！とお叱りを頂きながら、会員の皆さまにお願い致します・・・m(u_u)m

なお皆様からお預かりした情報は、厳重に管理し、当会からの連絡での使用に限らせて頂きます。



メール連絡に使用する PC またはスマホから
件名に「メール連絡用」
本文に「氏名と市区町名」を記入にて
都師会 toshikai8811@ybb.ne.jp 宛に
メールを送信して下さい。



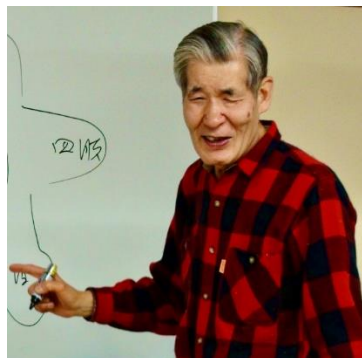
5. 都師会チャンネルご案内

前号でもお知らせさせていただきました、youtube での都師会チャンネルはもうご覧いただけましたでしょうか？各種講習会の様子などをアップしておりますので、ぜひご覧ください！



6. 各種ご連絡

□ 訃報 □



都師会の初心者鍼灸講座「杉塾」(毎月第一日曜日)の講師を長く務めて下さった前理事、杉山勲先生が、3 月 27 日、心不全のため逝去されました。享年 77 でした。杉塾の 9 年半の無私のご活動に心から感謝申し上げます。

先生は、1945 年茨城県にお生れになり、視力障がいを乗り越え、1967 年はり灸師免許を取得されました。以来、経絡治療の東洋はり医学会での修業を経て、陽経重視の理論を打ち立て、精緻な脈診を駆使し配穴する方法を軸に、研究団体「大成会」主宰してられました。

著書は、『鍼術速成講座』『鍼術上達講座』『鍼術完成講座』の三部作(緑書房)をはじめ、『はり灸治療の手引』『鍼灸院の患者が増える即効・陽経治療』『鍼灸いろは経・総論』『鍼灸いろは経・各論』(いずれも源草社)など多数あります。いずれも、『素問』『靈樞』『難経』などの古典から今に生かすべき内容を引き出し、自らの施術を披露して後進を導く貴重な成果です。

これらに盛り込まれた鍼灸臨床の豊かな記録は、永く伝えられるべきものであり、先生は、名人のイメージが残る時代の「最後の名人」と言えるでしょう。謹んでご冥福をお祈り致します。



TEL 03-3252-8811
FAX 03-3252-8813

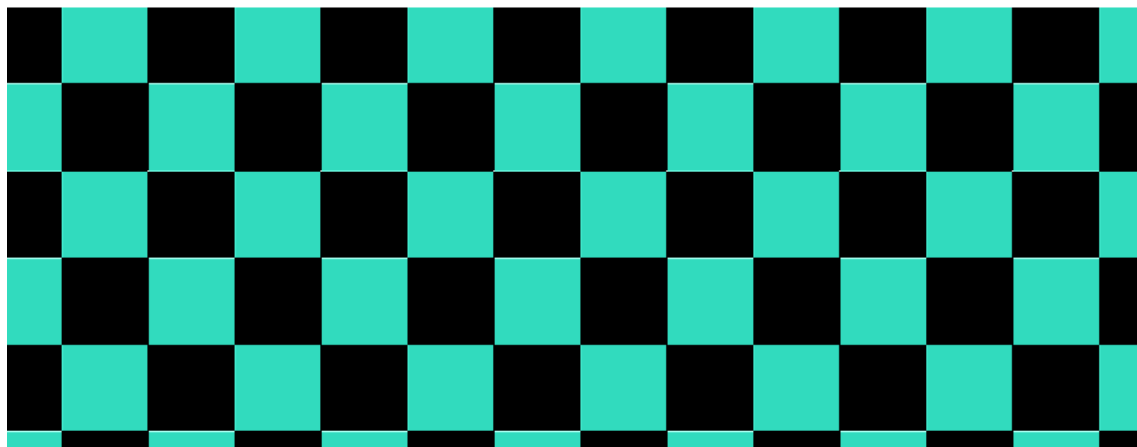
toshikai8811@ybb.ne.jp 

 tokyotoshikai

tokyo89am 

 東京都師会チャンネル

<http://tokyo89am.or.jp/> 



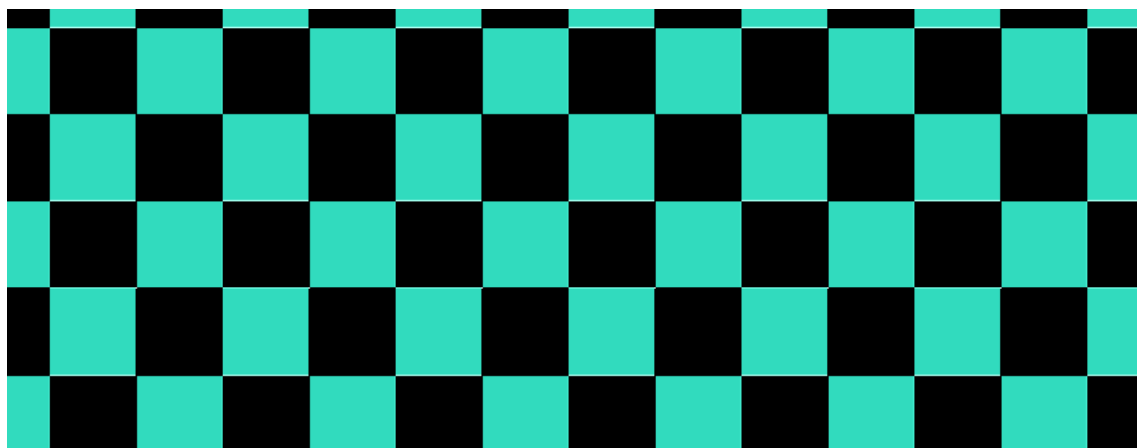
公益社団法人 東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会 会報 27 号

発行者 森井 貴司

公益社団法人 東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会広報局

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 37-4

TEL 03-3252-8811 FAX 03-3252-8813



Toshikai